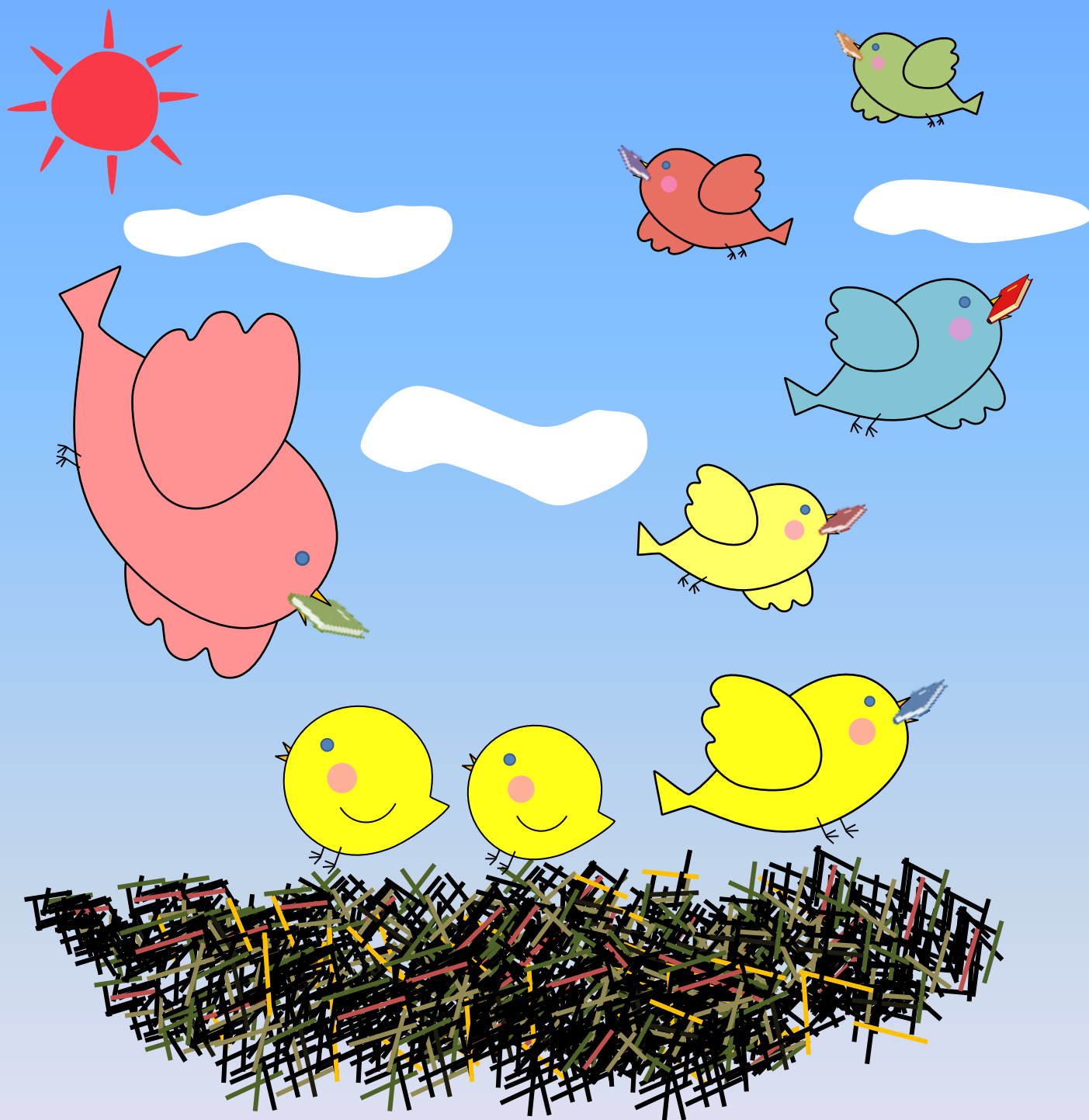


前橋市子ども読書活動推進計画（第二次）

伝えよう 本のすばらしさを



前 橋 市 教 育 委 員 会

は　じ　め　に

前橋市は、家庭・地域・学校・行政等全てのところで、子どもが本と出会い、主体的に本に親しめるよう取り組みたいと考えています。

この計画の具体的な取組は、たとえばこんなことができるという例示に過ぎません。

子どもに関わる全ての人それぞれが、よりよいアイデアを出し、工夫して取り組んでいくことが大切だと思います。

みんなで一緒に第二次計画をすすめましょう。



表紙について

第一次計画の「本との出会いを広げ、心豊かに」の取組（巣）を土台にし、大人から読み聞かせを受けた子どもたち（小鳥）が、主体的に羽ばたいていくように、願いを込めています。

— 目 次 —

第 1 章 計画の策定にあたって	1
第 2 章 計画を進める具体的な取組	3
取組の 1 子どもが本と出会うために	
1 生まれる前から	
2 はじめての絵本	
3 子どもへの読み聞かせ	
4 子どもに本をすすめましょう	
5 親子で読書を	
6 イベントや行事に参加しましょう	
取組の 2 子どもが主体的に本に親しむために	11
1 本について話しましょう	
2 友だちに本をすすめましょう	
3 今度は私が読み聞かせ	
4 図書について学びましょう	
5 子ども読書サミット	
本のすばらしさを伝える施設の充実	16
第一次計画からスタートした取組	19
1 市立図書館における取組	
2 学校における取組	
3 幼稚園・保育所（園）における取組	
4 生涯学習課・公民館における取組	
5 児童文化センターにおける取組	
6 こども課における取組	
7 第一次計画の成果と課題	

第1章 計画の策定にあたって

目的

平成21年3月に「前橋市子ども読書活動推進計画」（以下「第一次計画」という。）を策定しました。未来の前橋市を担う子どもたちの健やかな成長を願って、実践的な活動計画を示し、家庭・地域・学校・行政がそれぞれの分野で、子どもたちが本と出会う環境づくりを進めてまいりました。

このたび、第一次計画におけるこれまでの取組状況や成果等を整理し、引き続き、「子どもたちが心豊かに成長していく」ことをめざして、「前橋市子ども読書活動推進計画（第二次）」（以下「第二次計画」という。）を策定することとしました。

期間

平成26年度～
平成30年度（5年間）

対象

15歳以下を主に、
おおむね18歳以下の
子ども及びその保護者等
子どもにかかわる大人

基本的な考え方

第二次計画では、これまで進めてきた「本と出会うきっかけづくり」をさらに充実し、本の「楽しさ」や「すばらしさ」を感じ、伝え合う様々な読書体験を積み重ねる中で「子どもが主体的に本に親しむ」ことを目標に、様々な取組を進めます。

特に、大人が子どもたちに本のすばらしさを伝えたり、大人同士で伝え合ったり、子どもが周囲の人に伝えたり、子ども同士で伝え合ったりする機会を積極的に設けることが大切であると思います。

そこで、第二次計画のテーマを

伝えよう 本のすばらしさを としました。

目標に向けて、図書館・幼稚園・保育所（園）・学校、公民館・児童館・児童文化センター・保健センター、家庭・地域等、本市の様々なところで連携しながら、本と子どもたちをつなげる「人」の役割を重視し、子どもたちの読書環境を整備していきます。

すべての子どもたちが、読書を通して様々な人とかかわり、本の楽しさを感じ、知識を深め、感動を「人」と共有することなどを通して、心豊かに成長していくことを願い、第二次計画に取り組んでまいります。

これらの実現のためには、行政だけでなく、市民の皆さんと一緒に取り組むことが必要です。

生まれる前から自立していくまで、子どもの成長に応じて次のように取り組んでいきましょう。

取組の1 子どもが本と出会うために



本と子どもたちをつなげていく「人」のかかわりを大切にして、本と出会うきっかけづくりをすすめましょう。

取組の2 子どもが主体的に本に親しむために



自分で本を選び、読んだ本のすばらしさを伝えられる場面をたくさん作り、主体的に本に親しめるよう、みんなで支えましょう。



家族→子ども



子ども同士



子ども→周囲の人



大人→子どもたち



大人同士

本と子どもたちが
人でつながる

第2章 計画を進める具体的な取組

取組の1 子どもが本と出会うために

🐣 子どもたちに「本のすばらしさ」を伝えていくために、第一次計画で進めてきた「本との出会い」をさらに充実していくことが大切です。特に、本と子どもたちをつなげていく「人」のかかわりを大切にして、前橋の子どもたちが、本と出会うきっかけづくりをすすめましょう。

1 生まれる前から ～家庭ではじめてみましょう～

妊娠期の段階から、お腹の赤ちゃんに向けて親が絵本の読み聞かせを行うことは、早い段階での親子関係を作るきっかけや、夫婦間のコミュニケーションが深まることにつながります。

何よりも、絵本のある家庭環境づくりを進めることは、子どもが本と出会うきっかけづくりにつながります。

たとえば こんなことを

🐣 家庭では

- お腹の赤ちゃんに向けての読み聞かせ

🐣 こども課・保健センターでは

- 「マタニティーセミナー」や「パパママ教室」における、お腹の赤ちゃんに向けての読み聞かせ
- おすすめ絵本の紹介

🐣 図書館では

- 胎教におすすめのCDリストの紹介
- 母子手帳交付時のブックスタート事業※1の紹介



※1 ブックスタート事業（第一次計画から継続） P.20参照

2 はじめての絵本

絵本を開いたときに目にする絵や、繰り返しのリズムカルな言葉など、意味は分からなくても子どもは楽しさや温かさなどを感じます。また、本を通して親の愛情も感じます。そこで、早い時期から絵本に出会えるようにしましょう。

たとえば こんなことを

🐸 家庭では

- ブックスタートでもらった絵本の読み聞かせ

🐸 図書館・読み聞かせボランティア・こども課・保健センターでは

- 各機関と協力、連携したブックスタート事業の充実

🐸 こども課・保健センターでは

- 親子を対象とした健診等で絵本の紹介

🐸 生涯学習課では

- 公民館が主催する「家庭教育学級」や「子育て支援ボランティア」等の子育て支援事業での啓発
- 保護者に絵本のすばらしさを紹介

🐸 保育所（園）では

- 0歳児への読み聞かせや保護者への啓発



3 子どもへの読み聞かせ

絵本と出会うことで、美しいものへの感性が育ち、言葉の力が身に付き、想像力が豊かになり、読書に対する興味関心が高まるなど、たくさんの効果が期待されます。また、子どもにとっては、読み聞かせをする大人の愛情を感じることで、心の安定にもつながります。小学校高学年や中学生になっても、絵本の読み聞かせは好評です。

たくさんの機会を捉えて、子どもたちの豊かな読み聞かせ体験を推進しましょう。

たとえば こんなことを

- 😊 家庭では
 - 保護者や祖父母、兄姉が読み聞かせ
- 😊 こども課・保健センターでは
 - 親子を対象とした健診等での読み聞かせ
- 😊 図書館・幼稚園・保育所（園）・学校・公民館・児童館・児童文化センター等では
 - あらゆる機会に、読み聞かせ
- 😊 公民館・幼児教育センター・相談機関等では
 - セミナーや講座等の親子が集まるところで読み聞かせ
- 😊 幼稚園・保育所（園）・小学校・特別支援学校等では
 - 大型絵本や紙芝居、仕掛け絵本、季節にあった絵本などの読み聞かせ



4 子どもに本をすすめましょう

テーマやジャンル、年齢などに合わせて本を紹介したり、本を選ぶ手助けをしたりすることは、子どもたちが読みたい本と出会うきっかけになります。一回の紹介が、すべての子のきっかけになるとは言えません。しかし、紹介の場がたくさんあれば、自分にとってぴったりの本と出会えるチャンスも増えるでしょう。

また、大人も子どものおすすめ図書リストを手にすることで、読み聞かせや子どもが本を選ぶ際の手助けとなります。

子どもたちに様々な場、方法で本を紹介しましょう。



たとえば こんなことを

😊 家庭では

- 親子で図書館や本屋へ出かける
- 家族で本について語る

😊 学校では

- 授業の中で、朝の会で、図書委員会活動でおすすめ本の紹介

😊 図書館では

- ホームページでおすすめ本やリストなどの子どもたちの読書に関する情報の提供

😊 図書館・幼稚園・保育所（園）・学校・児童文化センター・児童館等では

- 本の表紙が見えるような展示の工夫
- 年齢や発達に応じたおすすめ図書リストの作成配布
- おすすめ本の展示コーナーの設置

- ブックトークやストーリーテリング

図書館・幼稚園・保育所（園）・学校では

- 読書案内
- 館報、学校だより、園だよりなどで本の紹介

公民館・地域のイベント等では

- 子どもが目にするところに本の紹介の工夫



図書館だより

おすすめ図書リスト



しおりコンクールの様子

5

親子で読書を

読書の独り立ちへの手助けの一つとして、親子で同じ本を読む「親子読書」があります。子どもにとって読書のきっかけづくりにもなるほか、本を通した親子・家族の絆づくりや家庭のコミュニケーションを深めることにもつながります。

機会をつくって親子（家族）読書を推進しましょう。

たとえば こんなことを

😊 家庭では

- 家族が子どもと一緒に本を読む
- 子どもと一緒に図書館を利用

😊 幼稚園・保育所（園）等では

- 保護者に、子どもが興味、関心をもった絵本の題名や作家名の紹介
- 保護者に、読み聞かせの際の子どもの反応や興味の示し方などの紹介

😊 生涯学習課では

- 公民館が主催する「家庭教育学級」や「子育て支援ボランティア」等の子育て支援事業での啓発

😊 幼稚園・保育所（園）・学校では

- 保護者に親子読書の良さを伝える啓発



本にかかわるイベントや行事に参加すると、新たな出会いが期待できます。紙芝居や人形劇、ペープサート、エプロンシアター、影絵など、様々な工夫を知り、本の楽しみ方が広がることでしょう。

イベントや行事を実施している人との出会いもあります。イベントや行事を通して本の楽しさに出会えます。親子で、家族で、子ども同士で参加しましょう。



たとえば こんなことを

 家庭では

- 親子や家族、近所の親子など、誘い合ってイベントや行事に参加

 幼稚園・保育所（園）・児童文化センター・児童館等では

- ボランティアによるイベント
- 子どもが出演する劇などの企画

 地域の様々な団体では

- 「生涯学習フェスティバル」での読み聞かせや劇等
- 文化祭やクリスマス会等の行事でのお話に関するイベント

 学校では

- 図書委員やボランティアによる、お話に関するイベント
- 図書委員による多読賞の表彰
- 読書感想文コンクール等への参加

🐸 図書館では

- 「子ども読書の日」及び「読書週間」を中心に子どもと保護者が本との出会いを広げるイベントやテーマ別展示



取組の2 子どもが主体的に本に親しむために

 本と出会い、感動体験をすると、その本の楽しさやすばらしさを友だちや周りの人に伝えたいことがあります。他の人の感動体験を聞いて、その本への親しみや関心が高まることもあるでしょう。また、その感動体験や思いを自分の言葉として記録するだけでも、見方や考え方が広がり、心の成長の糧となることもあります。

本を読んだ経験や感じたことを言葉にしたり、他の人と分かち合ったりすることが、主体的に読書をする上でも大切です。

前橋の子どもたちが、自分で本を選び、読んだ本のすばらしさを伝えられる場面をたくさん作り、主体的に本に親しめるよう、みんなで取り組みましょう。

1 本について話しましょう

本を読んだら、その感動が消えないうちに話をする事で、本に対する親しみや読書の楽しみが深まります。

子どもたちが、同じ本を読んだ人と、同じ作者の本を読んだ人と、また同じジャンルの本を読んだ人と、本について語りあえるようにしましょう。

たとえば こんなことを

 家庭では

- 家族や近所の友だち同士で、本について話す

 学校では

- 本を読み、本について思ったことや考えたことを伝え合う活動を取り入れた学習

 図書館等では

- 読書会
- ブックトーク
- 朗読会

2 友だちに本をすすめましょう

これまで、大人や先生からすすめてもらったことが多かった子どもたちが、自分が読んでよかったと感じた本を友だちにすすめることができれば素晴らしいことです。主体的に本と親しむことにつながります。できれば、あらすじを伝えるだけではなく、「面白さを伝える」「好きなところを紹介する」など、感動を表現できるように応援したいものです。また、「読んでみたい！」と友だちが感じるように伝えるなど、相手を意識させるような表現力も大切です。

子どもたちが、色々なところで、友だちに自分の好きな本をすすめられるようにしましょう。

たとえば こんなことを

- 🐡 幼稚園・保育所（園）では
 - 絵本の主人公になりきって、歌ったり語ったりする遊び
- 🐡 学校では
 - 図書委員会で図書館だよりを作成し、子どもたち同士でおすすめ本の紹介
 - 授業では、本の帯、ポスター作りを取り入れた学習活動の工夫
 - 読書感想文や感想画コンクールなどに挑戦
- 🐡 図書館・児童文化センター・児童館等では
 - 「私のおススメの一冊」、ブックツリーの作成



3 今度は私が読み聞かせ

小さいころに読み聞かせをしてもらった子どもたちが、今度は自分が読み聞かせをすることができれば、本のすばらしさを伝える場になり、本を通して異年齢の子とふれあう機会にもなります。子どもたちが、色々なところで、小さい子やお年寄りなどに積極的に読み聞かせができるようにしましょう。

たとえば こんなことを

 学校では

- 小学校 1 年生が幼児に読み聞かせ
- 高学年の児童が低学年に読み聞かせ
- 小中学生がお年寄りに読み聞かせ
- 中高生が小さい子に読み聞かせ

 家庭では

- 兄弟姉妹で読み聞かせ

 図書館・児童文化センター・児童館等では

- 中高生が職場体験で読み聞かせ
- 中高生の読み聞かせボランティア



4 図書について学びましょう ～興味・関心のあることを自ら学ぶ～

本に対する関心が高まってくると、本について学びたくなることがあります。本への興味・関心が高まった子どもたちが、実際の場面でわかりやすく学べる機会が必要です。子どもたちが、図書館などにいる専門性の高い人から学べるようにしましょう。

たとえば こんなことを

 図書館では

- 中高生の職場体験学習プログラムの中で、図書について学ぶ
- 図書館ボランティア、図書館ツアー等の推進
- 図書館員体験

 学校では

- 授業での学校図書館の積極的な活用
- 図書の分類や探し方の学習



子どもが読書をする時間が少ないのはなぜか、読書が人に与える価値とはどんなものかなど、子どもたち自身が現状を捉え、対応策を考えることは、主体的に本に親しむためにも重要です。多くの前橋の子どもが集まり、自ら考え、議論し、そして全国の子どもたちへ発信していけるようにしましょう。

そのために こんなことを

 子ども読書サミットを開催しましょう

本のすばらしさを伝える施設の充実

1 利用してもらうための工夫

子どもが利用する施設では、いつでも様々な本に触れることができる環境づくりが大切です。

児童書などの図書資料を充実し、これらの本を子どもたちにつなげる工夫も重要です。

そのために こんなことを

図書館では

- こども図書館、分館、停本所の児童書の充実
- 図書館利用カード配布事業※²

児童文化センターでは

- 科学・文化芸術活動や環境保全活動など、施設と関連した本の充実

幼稚園・保育所（園）では

- 団体貸出※³などを利用し、絵本の充実
- 乳幼児が絵本等に親しむ環境づくり

学校では

- 授業の内容に関連した本や社会の中で話題になっていることに関連した本を特設コーナーに設置
- 学校図書館蔵書の充実



※² 図書館利用カード配布事業（第一次計画から継続） P.21 参照

※³ 団体貸出（第一次計画から継続） P.21・22 参照

2

子どもと本をつなぐ人の役割

😊 子どもに本のすばらしさを伝えたり、子どもが気軽に本について相談したりできるような「人」の存在が大切です。

図書館の職員、ボランティア、学校や幼稚園の先生、保育所（園）の保育士など、子どもの読書にかかわる全ての人が、子どもに積極的に声をかけるなど、その役割を工夫しましょう。



そのために こんなことを

😊 貸出カウンターでは

- 本と親しめるよう、子どもへの笑顔で積極的な話しかけ

😊 図書館では

- 読み聞かせ入門講座や読み聞かせボランティア養成講座等を開催し、子どもと本をつなぐ支援とネットワークの充実
- 読み聞かせボランティアや専門職員を必要とする学校や幼稚園、保育所（園）等への支援

😊 生涯学習課・公民館では

- ボランティア育成講座等でボランティアの育成、支援

😊 幼稚園・保育所（園）・学校では

- 子どもと本についておしゃべりする場づくりの工夫

😊 学校では

- 読書活動や教科指導における学校図書館の活用等の教職員研修
- 図書館利用の環境づくり

- 学校図書館職員の研修等への参加
- 学校図書館職員の子どもへのかかわり

😊 公民館・地域では

- 地域のイベント、行事等でボランティアを活用

😊 幼児教育センターでは

- 幼稚園、小学校、特別支援学校等の教員、保育所（園）の保育士、学生、市民を対象とした研修会の開催

前橋市読み聞かせグループ連絡協議会の紹介

市内読み聞かせグループの協力・相互連携・活動の推進を目的として平成 20 年に発足し、22 団体が加盟（平成 26 年 11 月現在）しています。子どもたちに良質な本を届け、健やかな成長を育むお手伝いをするために各地域で活動しています。



第一次計画からスタートした取組

平成 21 年度から 25 年度の実践

第一次計画のテーマ

～ 本 と の 出 会 い を 広 げ 心 豊 か に ～

😊 子どもたちが「本との出会いを広げ、心豊かに」成長していくことを願い、家庭・地域・学校・行政がそれぞれ実践的な活動をしてきました。その中から主な取り組みを紹介します。

1 市立図書館における取組

全ての館を、オンラインネットワークシステムでつないで、「いつでもどこでも借りて返せる」環境づくりを実現し、利用者にとって身近で利用しやすい図書館となりました。また、新しい図書館コンピュータシステムの導入により、さらに充実したサービスを提供しています。

特に、全国でも有数の児童書を中心とした蔵書数と延床面積を誇る「こども図書館」は、平成 19 年 12 月の開館以来、第一次計画を推進する中核として様々な活動を行っています。

(1) 図書資料の充実

① 図書館全体の資料の充実

本館、こども図書館、14 分館の図書資料数

983, 761 点【平成 26 年 3 月末時点】

[内：児童図書 339, 359 点（全体の 34.5%）]

② こども図書館の資料の充実

こども図書館の図書資料数

【平成 21 年 3 月末時点】 【平成 26 年 3 月末時点】

89, 326 点

128, 299 点

（２）ブックスタート事業

地域の母子保健推進員やブックスタートボランティアと連携し、ブックスタート事業を行っています。

これは、赤ちゃんが絵本に触れるきっかけとなり、また赤ちゃんと保護者が、一緒に絵本を楽しむことで親子のふれあいが深まることを願い、赤ちゃん（０歳児）に絵本を１冊プレゼントするものです。

※絵本の引換え実績（引換え率）

【平成２１年度】	【平成２４年度】	（年度は出生児年度）
６７．２２％	８２．９９％	



（３）読み聞かせ活動支援

地域や市内の幼稚園・保育所（園）等の読み聞かせ活動を支援するため、絵本・紙芝居・紙芝居用舞台等の団体貸出を行っています。

（４）学校等への支援

① 学校への団体貸出事業

市内の学校図書館を支援し、教科学習や総合的な学習の時間などの教育活動に資するため図書館資料の団体貸出を行っています。

【平成２５年度の利用】

利用回数：２２回 利用冊数：５７７冊

② 絵本セット団体貸出事業

市内の幼稚園・保育所（園）に対し、幼児期から本との出会いや本と親しむ機会を増やすために、絵本セット（１セット１００冊）の団体貸出を行っています。

【平成２５年度の利用】

利用団体数：９６団体 利用冊数：９，６００冊

（５）ボランティアへの支援

「前橋市読み聞かせグループ連絡協議会」との連携や、読み聞かせ技術スキルアップの研修会の開催、ブックスタートボランティアの公募・研修会の開催を行っています。

（６）子どもの読書活動推進の取組

① 図書館利用カード配布事業

平成２２年度に前橋市内の小学校の全児童を対象に、平成２３年度からは小学校新１年生を対象に希望を募り、図書館利用カードを配布しています。

※１８歳以下の図書館利用カード保有者数

【平成２１年４月１日現在】 【平成２６年３月３１日現在】

１８，８３８人

２９，６５７人

② 読書案内資料の配布

ブックスタートパックへ「おすすめ絵本リスト」を同封し、小学１年生への図書館利用カード配布時にブックリスト「一年生におすすめの本リスト」、中学１年生にはブックリスト「毎日がホン日和」を配布するなど、子どもの発達の状況に応じた読書案内を行っています。

（７）各種イベントや集会行事

読み聞かせボランティアのほか、市民と協力・協働した集会行事やイベント、児童文化センターや市役所関係課と連携したイベントや展示等を開催しています。

2 学校における取組



(1) 授業における読書活動の推進

読書活動の推進は、学習指導要領でも重視されています。授業では、読書活動を効果的に取り入れて学習の充実を図っています。

(2) 学校図書館の充実

- ① 学校図書館管理システムを導入し、情報検索、蔵書管理、子どもの利用状況の把握などをしやすくしています。
- ② 授業で活用できる図書をリストアップした「前橋市学校図書館推薦図書リスト」を作成し、蔵書の充実と授業における学校図書館の活用を進めています。
- ③ 子どもたちがより学校図書館を活用しやすいように、平成24年度の二学期より、学校図書館業務従事臨時職員の勤務時間を長くしました。
- ④ 学校図書館業務従事臨時職員を対象とした図書館運営等についての研修会を行っています。

（３）子どもが読書に親しむ工夫

- ① その時々話題に関連付けた図書を集めたコーナーの設置や本のポップ、教師や児童生徒の推薦などによる図書の紹介など、各校が工夫して読書環境づくりに取り組んでいます。
- ② 各学校では、朝読書や読み聞かせ活動を行ったり、読んだ本について話し合ったりするなど、子どもが本に接する機会を計画的に設けています。
- ③ 地域の人や保護者などのボランティアが、朝読書の時間に読み聞かせをしている学校もあります。
- ④ 図書館だよりで新刊の紹介や、図書委員が集会や校内放送で図書紹介を行うなど、子どもが自分で本を選べる工夫をしています。

（４）教員向けの研修

総合教育プラザで実施する教員の研修において、読書活動に関する研修を行っています。

３ 幼稚園・保育所（園）における取組



（１）担任による読み聞かせ

降園前の時間等を利用して、担任が読み聞かせをしています。

（２）絵本に親しむ工夫

- ① 絵本の部屋や絵本コーナーを設置し、子どもたちが思い思いに過ごす中で自由に見られるようにしています。
- ② こども図書館の「絵本セット団体貸出事業」を利用して様々な種類の絵本をそろえ、その置き場所を工夫するとともに、子どもたちが自由に見られる時間をつくっています。
- ③ 保護者や地域の方による読み聞かせや大型紙芝居などを行っている幼稚園・保育所（園）もたくさんあります。

（３）絵本の貸出

自分の好きな絵本を家の人から読んでもらえるように、金曜日に絵本の貸し出しを行っている幼稚園・保育所（園）がたくさんあります。

（４）先生向けの研修

幼児教育センターで、絵本に関する研修を行っています。

4 生涯学習課・公民館における取組



（１）生涯学習課において

生涯学習課では、「生涯学習フェスティバル」等の事業において読み聞かせを実施しています。

（２）各公民館において

各公民館では、公民館に団体登録している読み聞かせグループの活動を支援しています。

また、公民館が主催する「家庭教育学級」や「子育て支援ボランティア講座」等の「子育て支援事業」で、読書活動の大切さや読み聞かせの方法等を伝える講座等を行っています。

さらに、子ども向けに地域の文化祭やクリスマス会等の「地域づくり事業」で読み聞かせを実施しています。

5 児童文化センターにおける取組



児童文化センターは、平成24年1月に新館がオープンし、「わくわくひろば」と称した停本所を開設しました。本の表紙が見えるようにした書架や絨毯敷きの読書コーナーもでき、蔵書数も大幅に増えました。

平成24年度から、停本所に臨時職員を1名配置し、貸出業務や読書環境の整備が充実し、児童文化センターのボランティアが、読み聞かせなどの活動を推進しています。

主な取組としては次のようなことがあげられます。

- ① 停本所の職員による親子への読書推進
- ② 児童文化センター事業と関連させた図書を紹介
- ③ 利用者（親子、祖父母と孫など）の交流の推進
- ④ 読み聞かせボランティアの活動の場の拡大

6 こども課における取組

こども課では、保健センターで行う乳幼児健診を始めとした各種事業の中で絵本の読み聞かせを取り入れ、親子で本に親しむことの重要性や親子の愛着関係の構築、子どもの発達の促しやしつけに関する提案等を行っています。

また、ブックスタート事業での選定本をきっかけに、親から子への読み聞かせのよい機会となるよう、絵本の紹介等も行っています。

7 第一次計画の成果と課題

第一次計画では、「本との出会いを広げ、心豊かに」のテーマのもと、様々な取組をしてきました。これらの取組は、第二次計画へ継続し、より充実させていきます。

(1) 成果

① 子どもたちが本と出会う場の広がり

本と出会う機会は、家庭をはじめ、学校（園）や図書館に広がってきています。さらに、保健センターや児童文化センターなどへも広がり、子どもたちの心の豊かさにつながっています。

② 文部科学大臣表彰

平成 24 年度

前橋市立宮城中学校

子ども読書活動優秀実践校

平成 25 年度

前橋こども図書館

子ども読書活動優秀実践図書館

富士見公民館図書室
ボランティアグループ

子ども読書活動優秀実践団体

(2) 課題

第一次計画では、子どもの読書環境を整備し、家庭・地域・学校・行政がそれぞれの場で、様々な取組を実践してきました。これらの取組は、子どもたちの読書活動の推進に大きな成果を上げることができました。

今後は、本と出会う機会を広げるための工夫をより充実させるとともに、子どもたちが主体的に本に親しむために、様々な取組をしていく必要があります。

前橋市子ども読書活動推進計画（第二次）
伝えよう 本のすばらしさを

策 定	平成 26 年 1 1 月
発 行 者	前橋市教育委員会事務局 図書館
著作編集	前橋市子ども読書活動推進計画策定委員会
連 絡 先	前橋こども図書館 TEL027-230-8833

<https://www.tosyokan.city.maebashi.gunma.jp/>

